

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 4 9 号	
件 名	B R T (連節バス) システムの全面撤回を求めることについて	
要 旨	<p>B R T (連節バス) システムの導入によって市民生活が不便になっているので、システムを全面撤回することが求められる。システム導入の賛否を問う住民投票条例を成立させ、市民の審判を仰いでほしい。</p> <p>B R T (連節バス) システムによって多くの市民の生活を不便にしていることは明白。乗りかえをしなければ古町へ行けない、待ち時間もあって外出するのがおっくうになるなど乗りかえがあり、市民の不満は大きい。市政の基本は市民生活を改善、向上させることにあるにもかかわらず、市民の生活を不便にしているのであるから、B R T (連節バス) システム導入の大義は失われている。市議会がシステムの全面撤回へと姿勢転換することが求められる。</p> <p>私の場合は、女池愛宕や女池神明のバス停から市役所前で乗りかえないと古町や本町へは行かれなくなっている。私の周辺でも、B R T (連節バス) システムにして、かえって不便になったのはどうということかという怒りの声が満ちている。</p> <p>古町周辺の復興に逆行していることも重大。私は白山小学校、白新中学校が母校であり、新潟市の中心である古町の衰退は残念に思ってきたが、B R T (連節バス) システム導入によって一段と客足が遠のいている。この点は古町商店街の代表者らが指摘している。</p> <p style="text-align: right;">(裏面につづく)</p>	
付 託 年月日 委員会	平成 28 年 2 月 17 日	第 1 項 第 2 項 } 環境建設常任委員会
受 理	平成 28 年 1 月 29 日	第 6 3 1 号

連節バスの乗客調査により導入の必要性がないことが判明。

新潟市政の無駄遣いをやめさせる会が昨年 11 月 24 日、火曜日、B R T 連節バスの乗客調査を行い、最多の乗車数は 43 人であることが判明した。この調査は乗車の多い午前の 4 時間と夕方から夜の 4 時間に新潟駅前、万代、青山のバス停に調査員を配置して実施。それによると最大乗車数は新潟駅発の午前 8 時 4 分の連節バスで 43 人。続いて同駅午前 7 時 57 分発の 42 人となっている。したがって 60 人乗りの普通のバスで十分であり、連節バス導入の必要性はないことを証明した。

システム導入を巡る全体の構図は、市長がフランスの姉妹都市訪問を機に、連節バスを新潟に入れたいと思ったことが発端となり、強引に導入を進め、市議会としてのチェックもできずに、結局導入。

しかし実際導入してみると市民生活が不便になって、市民から不満と改善を求める声が沸き起こっているということである。

住民投票条例制定を求める直接請求署名は 6 万 2,000 筆に上り、法定必要数（1 万 3,000 筆）の約 5 倍となった。一般的な政令指定都市の直接請求署名に比べると異次元と言っているほどの高い率（有権者比率）で署名が集約されたのは、とりもなおさず B R T（連節バス）システム導入に対する市民の不満、改善を求める声がいかに強いかをあらわしている。各市議におかれては、実際に市民の声を聞いてみていただきたい。

こうした市民の声をしっかりと受けとめ、住民投票条例を制定し一刻も早く市民の審判を仰ぐことが市議会の責務と言える。

以下、2 つの項目について陳情する。

記

- 1 市議会が B R T（連節バス）システムの全面撤回へと姿勢転換すること。
- 2 B R T（連節バス）システム導入の賛否を問う住民投票条例を制定し一刻も早く市民の審判を仰ぐこと。